

## 記念講演



### 「子供の育ちと地域の力」

茨城大学生涯学習教育研究センター

助教授 長谷川幸介 先生

私は今年56歳になりますが、まだ独身です。悪い病気があるわけではありません。まして悪い趣味があるわけでもありません。4年前から茨城県の男女共同参画協議会の委員です。友人からは「たった一人の女性も幸せにできないのに、何で男女共同参画なの？」と飲

むたびに言われています。一昨年からは茨城県少子化対策県民会議の委員をやっています。話題になるのは「なぜ最近の人は結婚しないのか」とか、「子どもを生まないのか。」その座長をしているのが私です。針のむしろです。

### 子どもたちに伝えるべきこと

#### ■新品のリヤカー

私は26年間アパートに暮らしながら地域の子どもの廃品回収担当係長をやってきました。全然出世しません。周りのお父さん、お母さんは子どもが大きくなるにつれて役員の位もあがって行って、いつの間にかいなくなります。私は子どもがいるわけではないのに子ども会をやっているののでいつまでも廃品回収担当係長です。

2ヶ月に一度ずつ資源ごみが集まってきて、お父さん、お母さん方は軽トラックで来るのですが、私は車の運転が出来ません。そこでどうしようと町内会長さんに相談したのですよ。「子どもというのは軽トラックの荷台に乗るよりはリヤカーの荷台に乗ったほうが楽しいのだ。」と説得し始めたのです。「だからあまっている町内会費でリヤカーを買ってくれ」と頼んだのです。いい町内会長でね、「長谷川さんの言うとおりの。中古と言わず、新品のリヤカーを買おうじゃないか」と買う約束をしました。そのときの町内会長が私です。

#### ■墓参り

リヤカーを買ってから15～16年たちます。2ヶ月に一度ずつ子どもたちが集まってくると、私はリヤカーに子どもたちを乗せて引っ張るんです。私は子どもたちに話すことがあるんです。「ねえ、人間は絶対に死ぬんだよ。死んだらお墓に入るんだよ。お墓は真っ暗でさびしいから家族は年に何回かお墓参りに行くんだよ。そして死んだ人が寂しいと思うからお酒とか花を持っていくんだ。おじさんは子どももないし、この体型だから早く死ぬと思うけど、おじさんが死んでお墓に入ったら花を持ってきてくれる？」というわけです。子どもたちの返事がないときには「君たち、おじさんがあげたジュース飲んだらう？」などと言う訳です。私は2ヶ月に一度ずつこのことを反復練習しているのです。